

みんなの声で、モ〜っと 住みやすいまちに。

世の中や私たちの暮らしが大きく変化した2020年。市には、「こんな取り組みがあったらいい」「こんなまちになってほしい」という声が数多く寄せられました。今回の特集では、皆さんから届いた意見や質問をもとに、このまちの将来について市長にインタビューを行いました。

2020年は、次のようなアンケートや意見交換会を行いました

- ▼ **新型コロナウイルス対策**
 - ・新型コロナウイルス感染症対応に対するLINEによるアンケート調査
- ▼ **那須塩原駅周辺まちづくりビジョン**
 - ・市民懇談会
 - ・15歳以上の市民2千人へのアンケート調査
 - ・市内県立高校の全生徒へのアンケート調査
- ▼ **市民参加による気候変動の情報収集・分析事業**
 - ・農業者、観光業者、教育分野のヒアリング
- ▼ **市長と市民との意見交換会(みちたろうTO) わくわくトーク**
 - ・テーマ版(まちづくり団体、商店会など)
 - ・地域版(自治会、コミュニティなど)

その巻 新型コロナウイルス

— どのような思いで、新型コロナに向き合ってきましたか

コロナ禍において首長には3つの使命があると考え、各施策に取り組んできました。

1つ目は、非常事態宣言の発令や感染を防ぐ方法の呼びかけなどの直接的な対策。2つ目は、自粛で疲弊した経済支援などの間接的な対策です。それに加えて、もう1つ重要なのは「**収束後、急激に変化した社会の中で、本市はどうあるべきか**」を考えることです。これらを同時に、しっかりと進める必要があります。

【画像説明】旅行かばん・ゴミを拾う女性・はっぴを着た男性のイラスト



また、感染者数の増減によって自粛と緩和を繰り返しているのは持たないので、「**最低限これらの対策を行えば、活動できる**」という基準を作り、感染症対策と社会活動の両立を図ることが必要だと考えています。そこで、2020年は観光・自治会活動・イベント開催などのガイドラインを作成しました。これらは、皆さんからいただいた「国が示す注意事項だけでなく、市からも踏み込んだ指針を示してほしい」という声を反映したものです。

— 「正確で早い情報」が求められる今、情報発信について何を心掛けていますか

市などの公的機関は責任を持って正確な情報を提供していますが、今後の予測など、不確実な情報は発信できません。そこで、**市では発信できない部分を補う**ことが、私の役割だと考えています。例えば取り組みを行うまでの経緯や今後の見通しなど、皆さんの判断に役立つような情報提供を意識しています。

また、「市長がどう考えているか」を発信することで、世の中が急激に変化していく中でも、皆さんが将来を予測しやすくなるのではないかと考えています。

— 今後、コロナ禍をどのように乗り越えていきますか

新型コロナの影響が何年続くか見通せない中、場合によっては再び経済支援が必要な事態になるかもしれません。また、感染症対策と教育の両立や医療体制の確保など、するべきことは多いので**柔軟に施策を打っていきます**。

手探りだったところと比べると、新型コロナに対する知見も徐々に増えてきました。2021年はコロナ禍でも開催できるイベントを打ち出すとともに、希望する市民を対象としたPCR検査の実施などにも取り組んでいきたいと思っています。

意見交換会で寄せられた声を紹介するモ〜

地域の活力になるお祭りがあるといい!

まちを発展させるには、まず市民が元気であれば!

市の子育て支援に協力したい!

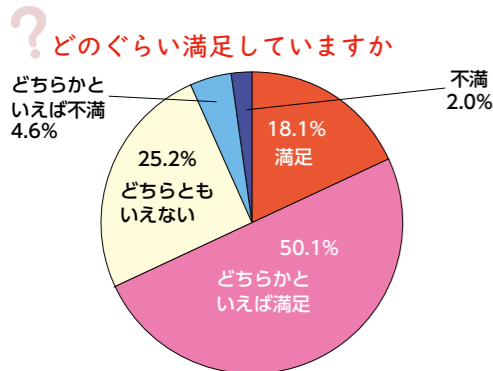
みんなでこのまちを盛り上げていきたい!



皆さんに聞きました!

市のコロナ対策についてどう思っていますか?

出典: 新型コロナウイルス感染症対応に対するLINEによるアンケート調査(7月)



? 「効果があった」と思う対策は

第1位	北那須3市町の共同非常事態宣言・判断目安の作成(北那須モデル)
第2位	市の非常事態宣言
第3位	自治会活動の自粛要請・ガイドライン作成

? 今後力を入れてほしい対策は

第1位	生活支援
第2位	保健衛生対策
第3位	子育て・教育支援
第4位	観光業者支援
第5位	雇用対策

- ! 意見・要望を書いてください ※一部抜粋
- うわさや臆測が広がる中、市長がSNSなどで最新情報を発信してくれて不安が和らいだ。
 - 県外からの来訪客が増えることに、正直、怖さを感じる。
 - 感染者が増えたときに備えて、すぐに検査ができる体制を整えてほしい。